

01

効果的な災害情報の伝達

1-1.沿岸部における効率的な情報伝達 | 仙台市

沿岸部にいる不特定多数の方へ、津波避難施設の位置を容易に認識でき、迅速な避難誘導に役立つソリューションを募集します。

<背景・課題>

- 沿岸部には、地域住民以外にも市内各所及び仙台市外からの観光客や海浜利用者が訪れる。地域住民は、「避難の手引き」や避難訓練等を通じて、津波避難施設の場所を理解しているが、こうした不特定多数の方々は、土地勘も無く、津波避難施設の場所も知らない可能性が高い。
- 津波情報伝達システムの屋外拡声装置では、津波警報等の情報と避難情報（避難対象エリアからの避難）を伝達するが、津波避難施設への経路までは示さない。
- 沿岸部の津波避難エリア I については、居住制限区域となっているため地域住民の避難の流れにのった避難は期待できない。結果、市外からの来訪者が避難できず逃げ遅れる危険性がある。

<実現したいこと>

- 津波警報等が発生した際に、土地勘が無くても最寄りの津波避難施設を把握して避難行動に繋げること。
- 偶々、そこに居合わせた方を対象とするため、特定のアプリケーション等、事前の準備を要しないことが望ましい。
- 利用シーンは、以下の条件を想定している。

対象エリア：かさ上げ道路より海側の津波避難エリア I の七北田川南岸から名取川北岸まで。

対象者：跡地利活用施設への観光客、海水浴、自転車、釣り、サーフィン、野鳥観察、カヌー等の海浜利用者。

対象避難先：仙台東部道路より海側の仙台市の津波避難施設。

1-1.沿岸部における効率的な情報伝達 | 仙台市

<補足情報>

- 津波避難施設の位置
 - ・ [津波からの避難の手引き](#)
- 津波情報伝達システム屋外拡声装置の位置
 - ・ [せんだいくらしのマップ](#)

1-2. 登下校中の子供達に対する情報伝達

登下校中の児童や生徒に対して、スマートフォンを使わずに国民保護情報をリアルタイムに伝達し、情報が理解しやすいソリューションを募集します。

<背景・課題>

- 登下校中にスマートフォン・キッズ携帯・ウェアラブル型端末等を所持していない児童や生徒には、国民保護情報をリアルタイムに伝達する手段が無いため、子供達の速やかな避難行動を促すことが困難。
- 沿岸部に設置されている屋外拡声装置を市内すべての登下校ルートに配置することは、導入・運用費用や設置場所等の課題がある。
- 学校の校舎に設置しているスピーカーから伝達する場合は、学校周辺しか音が届かない。
- 子供達が授業等で使用している端末の利用は現実的ではない。もともと教育以外の目的で使用することを想定していないことや、登下校中に所持していたとしても、Wi-Fi環境がないと防災アプリ等の情報を受信することができないものとなる。
- また、子供達への情報伝達となるため、理解のしやすさも求められる。

<実現したいこと>

- 登下校中のすべての児童や生徒へ、国民保護情報を確実に伝達できる仕組みを実現したい。
- また、上記を前提とした上で、さらにその後速やかな避難行動につながるものであると望ましい。
- 但し、導入・運用費用を極力抑えた仕組みを前提とする。

1-2. 登下校中の子供達に対する情報伝達

<補足情報>

- 屋外拡声装置の設置場所
[せんだいぐらしのマップ](#)
- 仙台市立学校の児童生徒数
[令和4年度児童生徒数一覧](#)

